

【1 分解説】生物多様性ホットスポットとは？

総合調査部 マクロ環境調査グループ 副主任研究員 牧之内 芽衣

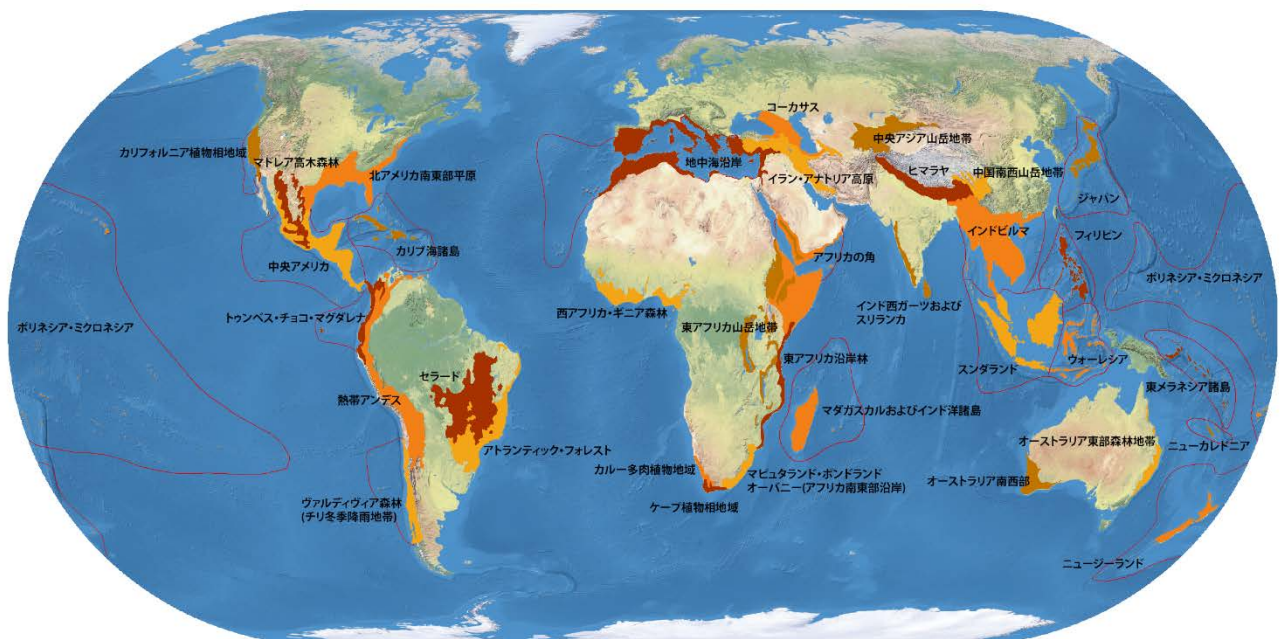
生物多様性ホットスポットとは、多様な生物が生息しているにも関わらず、生態系が危機に瀕しているとして専門家や環境 NGO が指定した地域のことを指します。

1988年に保全生物学者ノーマン・マイヤーズによって提唱され、現在36地域が指定されています。地球上の陸地に占める面積は2.5%ほどにすぎませんが、植物の50%、両生類の60%など、多くの生き物が生物多様性ホットスポットにのみ生息しています。また、当該地域にはおよそ20億人が暮らしています。

日本列島も生物多様性ホットスポットの一つで、生息する脊椎動物の約4分の1、両生類の約4分の3が日本だけに生息する固有種です。そのため、日本での企業活動は「生物多様性リスクが高い」としてネガティブ評価されやすい傾向にあり、注意が必要です。

※本稿は、週刊エコノミスト(10月3日号)への寄稿を基に作成しています。

資料 生物多様性ホットスポット



(出所)コンサベーション・インターナショナル提供

関連レポート

- ・「企業に求められる生物多様性・自然資本に関する情報開示」(2023年10月)
<https://www.dlri.co.jp/report/dlri/283111.html>
- ・「ネイチャーポジティブとは何か(2)～企業に求められる生物多様性・環境保全～」
(2023年4月)<https://www.dlri.co.jp/report/ld/241466.html>